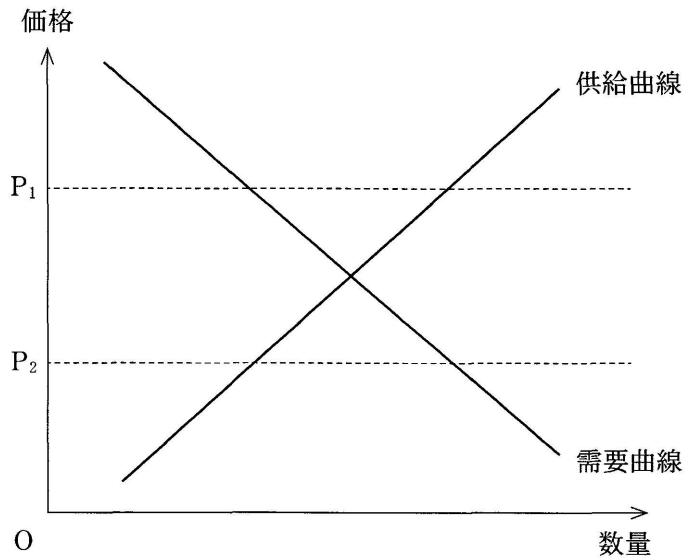


## 共通テスト・センター試験研究 【ミクロ経済】

問1 次の図にはある財の完全競争市場における需要曲線と供給曲線とが描かれている。

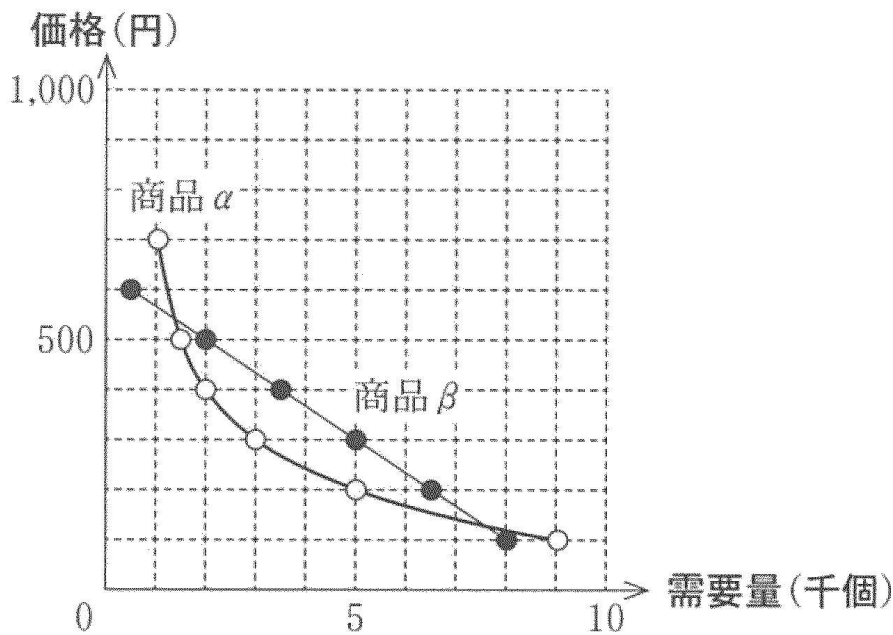
このとき、市場がもつ価格の自動調節機能についての記述として正しいものを、下の

①～④のうちから一つ選べ。(2016追試)



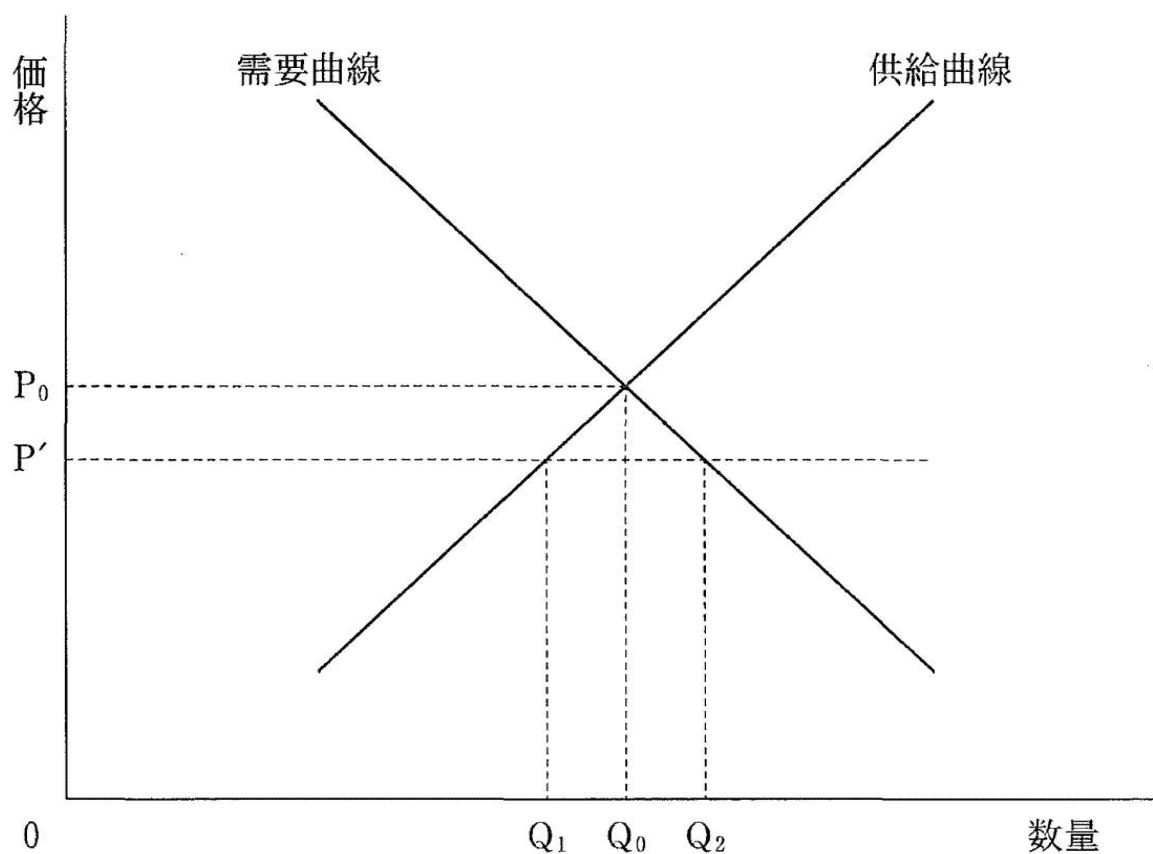
- ① 価格が $P_1$ であれば、需要が供給を上回るため、超過需要を減少させるように価格が下落する。
- ② 価格が $P_1$ であれば、需要が供給を下回るため、超過供給を減少させるように価格が上昇する。
- ③ 価格が $P_2$ であれば、需要が供給を上回るため、超過需要を減少させるように価格が上昇する。
- ④ 価格が $P_2$ であれば、需要が供給を下回るため、超過供給を減少させるように価格が下落する。

問2 生徒たちは農業従事者の方々と協働で新しい二つの商品を試作することにした。その際、値上げや値引きの効果は需要量の変化に現れるという授業の話思い出した。試作中の商品の売れ行きが気になった生徒たちは、二つの新商品に類似した商品  $\alpha$  と商品  $\beta$  の需要量と価格のデータを収集し、教科書を参考に需要量と価格の関係を次の枠内の図にまとめた。商品  $\alpha$  はなめらかな曲線となり、代表的な点は白丸(○)、商品  $\beta$  は直線であり、代表的な点は黒丸(●)である。各商品の需要量に価格の変化が及ぼす影響に関する記述として最も適当なものを、下の①～④から一つ選べ。(2021本試)



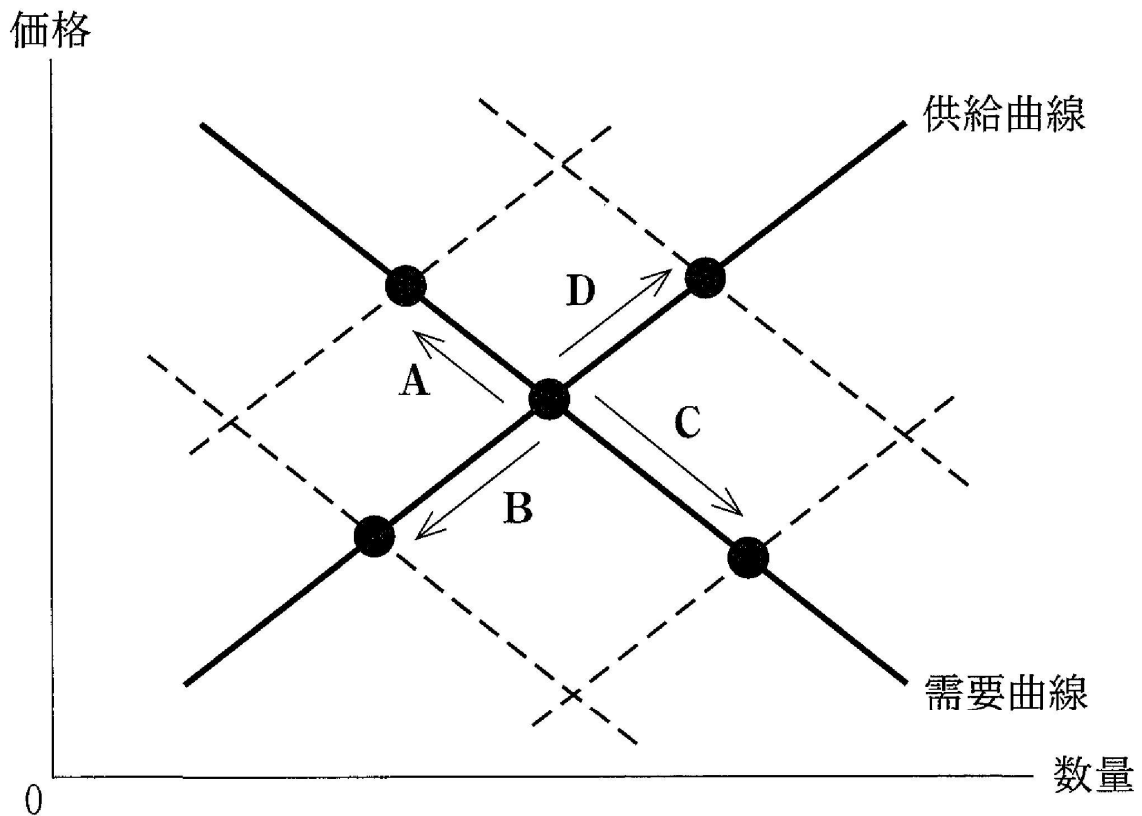
- ① 商品  $\alpha$  を200円で販売した場合と500円で販売した場合とについて、それらの価格から100円上昇したときの需要量の減少幅を比べると、500円で販売した場合の方が減少幅は大きい。
- ② 商品  $\alpha$  と商品  $\beta$  を200円で販売した場合、その価格から100円の上昇に対する需要量の減少幅は、商品  $\alpha$  よりも商品  $\beta$  の方が小さい。
- ③ 商品  $\beta$  を200円で販売した場合と500円で販売した場合とについて、それらの価格から100円上昇したときの需要量の減少幅を比べると、500円で販売した場合の方が減少幅は大きい。
- ④ 商品  $\alpha$  と商品  $\beta$  を500円で販売した場合、その価格から100円の上昇に対する需要量の減少幅は、商品  $\alpha$  よりも商品  $\beta$  の方が小さい。

問3 次の図は、ある財の市場における需要曲線と供給曲線を実線で示しており、また、価格 $P_0$ で需給が均衡することを示している。いま、政府によってこの財の価格の上限が $P'$ に規制されたとき、取引される財の数量についての記述として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。(2018本試)



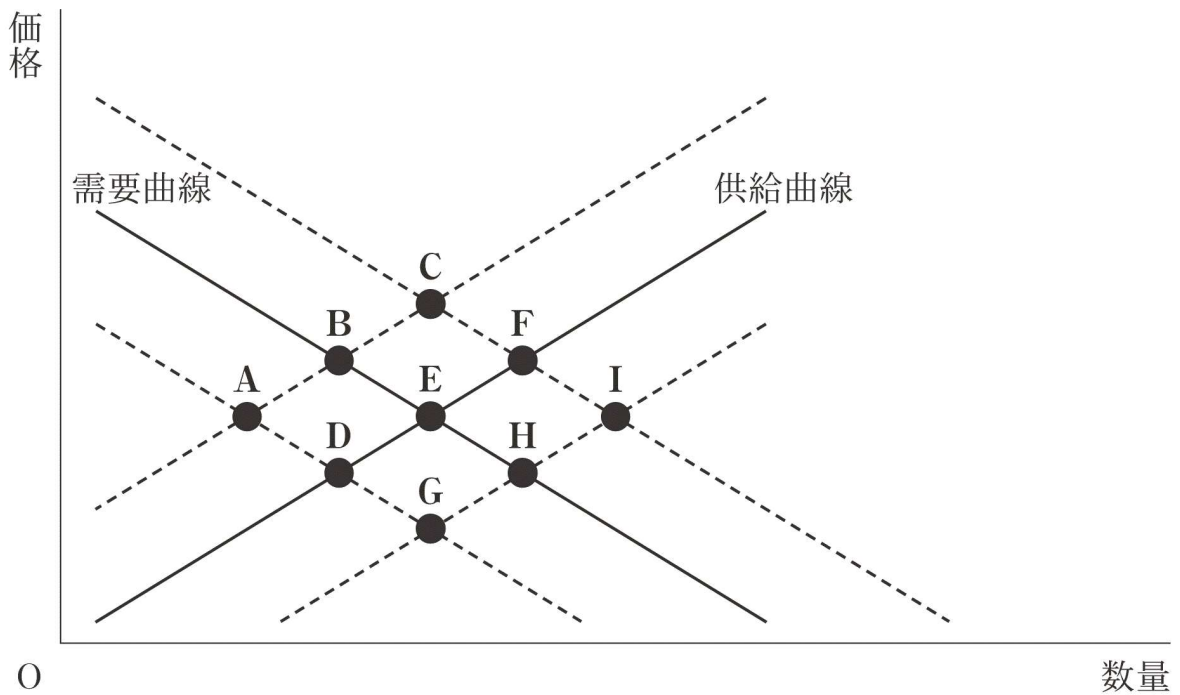
- ① 取引される財の数量は $Q_0$ になる。
- ② 取引される財の数量は $Q_1$ になる。
- ③ 取引される財の数量は $Q_2$ になる。
- ④ 取引される財の数量は0になる。

問4 次の図には、スポーツ用品の需要曲線と供給曲線が実線で描かれている。また、図中の矢印A～Dは均衡の移動を表している。スポーツ用品の生産者は、当初、賃金の安い児童を多く雇用していたが、その後、国際 NGO(非政府組織)の働きかけなどにより、生産者には国際的な労働基準を遵守することが求められるようになったとしよう。そのため、生産者は児童を雇用せず、より高い賃金を支払うようになったとする。他の条件を一定として、当初の均衡から、生産者が高い賃金を支払うようになった後の均衡への移動を表すものとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。(2015 本追試)



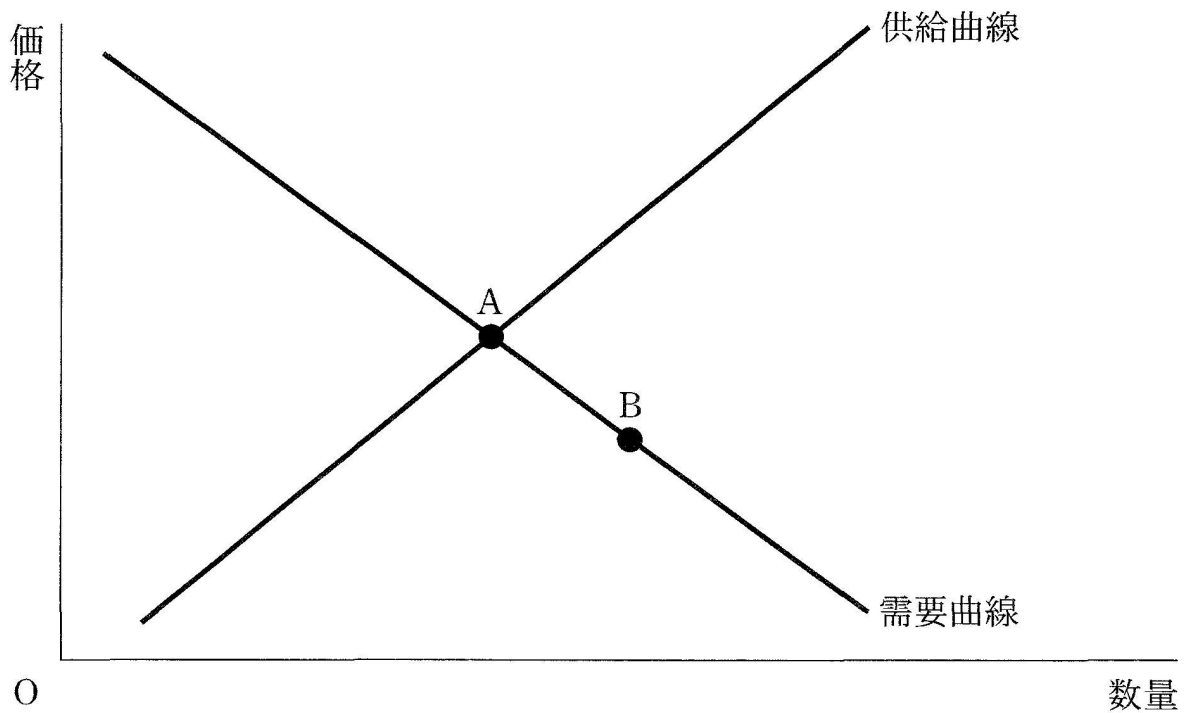
- ① A                      ② B                      ③ C                      ④ D

問5 次の図はある製品の需要曲線と供給曲線を実線で描いたものであり、当初の市場均衡点はEである。まず、その製品を生産するために使用する原材料の価格が下落し、市場均衡点に変化した。その後、その製品に対する人気が落ちたことにより、再び市場均衡点に変化した。これ以外の条件が変化しないと仮定し、均衡点が図中のA～Iしか存在しない場合、このときの市場均衡点の変化の順番として正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。(2020追試)



- ① E→B→A      ② E→B→C      ③ E→D→A      ④ E→D→G  
 ⑤ E→F→C      ⑥ E→F→I      ⑦ E→H→G      ⑧ E→H→I

問6 下線部(e)に関連して、次の図には、ある財の完全競争市場における当初の需要曲線と供給曲線とが表されている。いま、この市場において、均衡点がAからBに移動したとしよう。このような均衡点の変化を生じさせた要因として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。(2017本試)



- ① この財を消費する消費者の所得が増加した。
- ② この財に対する消費者の人気が高まった。
- ③ この財にかけられる税が引き上げられた。
- ④ この財を生産する技術が向上した。

問7 需要曲線が図1で表されるような市場を考える。この需要曲線に独占企業が直面しているとする。このとき、この市場についての説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。(2019専修大)

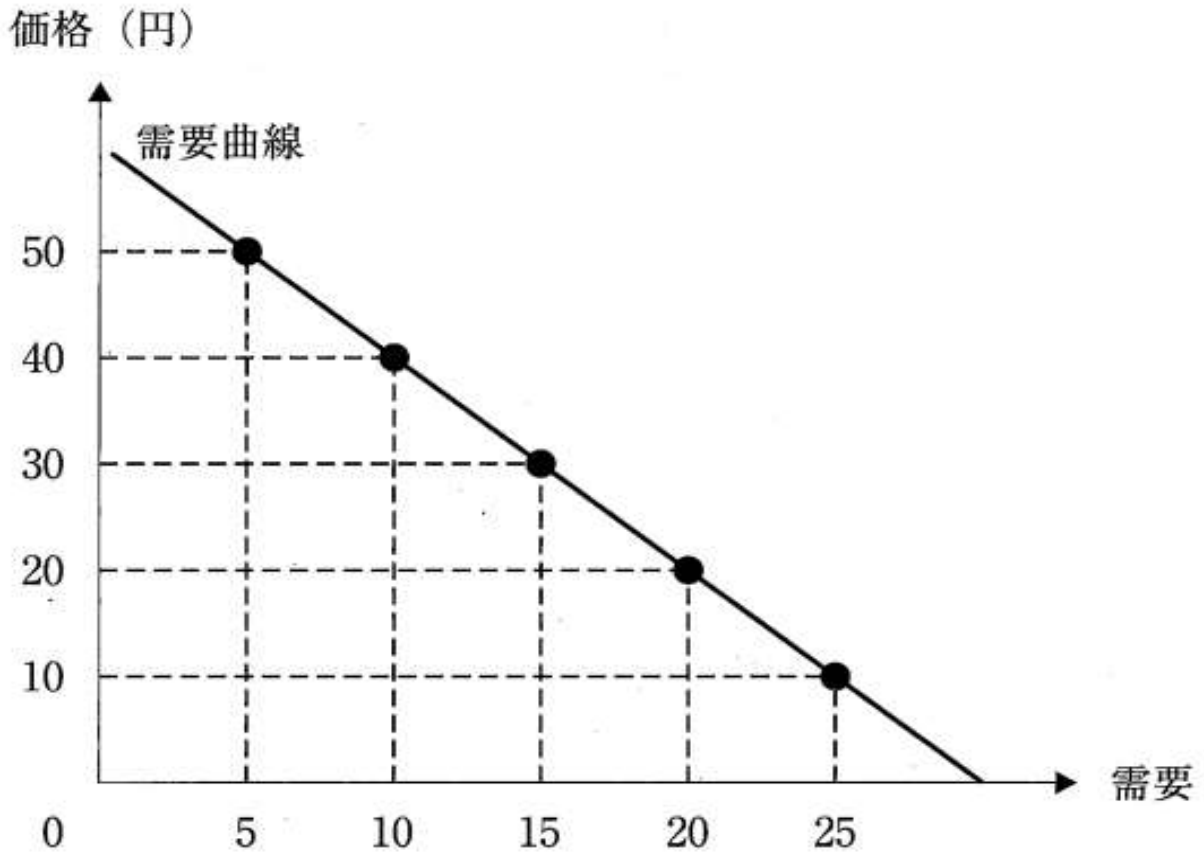


図1

- ① 独占企業が価格を10円から20円に引き上げると、この企業の収入は増加する。
- ② 独占企業が価格を20円から30円に引き上げると、この企業の収入は減少する。
- ③ 独占企業が価格を30円から40円に引き上げると、この企業の収入は増加する。
- ④ 独占企業が価格を40円から50円に引き上げると、この企業の収入は増加する。

問1 正解は③。価格が $P_1$ であれば、①需要が供給を「下回る」ため、②超過供給を減少させるべく価格が「下落」する。④価格が $P_2$ であれば、需要が供給を「上回る」。

問2 正解は②。①100円上昇した時の需要量の減少量は、200円で販売した場合が $5-3=2$ (千個)、500円で販売した場合が $1.5-1=0.5$ (千個)で、200円で販売した場合の方が減少幅は大きい。③100円上昇した時の需要量の減少量は、200円で販売した場合が $6.5-5=1.5$ (千個)、500円で販売した場合が $2-0.5=1.5$ (千個)で、減少幅は同じである。④100円の上昇に対する需要量の減少量は、商品  $\alpha$  が $1.5-1.25=0.25$ (千個)、商品  $\beta$  が $2-0.5=1.5$ (千個)で、減少幅は商品  $\alpha$  よりも商品  $\beta$  の方が大きい。

問3 正解は②。供給側の事情で供給量は $Q_1$ だけとなる。よって、取引される数量は $Q_1$ だけとなり、品不足の状態になる。

問4 正解は①。「生産者は児童を雇用せず、より高い賃金を支払うようになった」ことから、賃金の上昇が生産費の上昇を招き、供給曲線は左にスライドする。「他の条件は一定」で需要曲線は変動しないので、新たな均衡点はAとなる。

問5 正解は⑦。まず原材料の価格が下落すると、供給曲線が右下へシフト→均衡点はHへ。その後、その製品の人気落ちた、すなわち需要が減少したので、需要曲線は左下へシフト→均衡点はGへ。したがって、 $E \rightarrow H \rightarrow G$ と動くことになる。

問6 正解は④。均衡点がBに移動するのは、供給曲線が右にスライドするとき。また、供給曲線が右にスライドするのは、この財の生産費が減少したときである。①②需要曲線が右にスライドする。③税率が上がると生産費が上昇するので、供給曲線が左にスライドする。

問7 正解は①。収入は価格と数量で作られる長方形の面積。需要曲線の方程式は、 $p=-2q+60$ だから、

価格	数量	収入
10	25	250
20	20	400
30	15	450
40	10	400
50	5	250

となる。